

【研究名】：プレガバリンによる副作用の要因解析

【目的】

末梢神経障害性疼痛に対し、多く使用されるプレガバリンの有効性が示されている至適用量は 150 mg/日以上との投与量とされていますが、添付文書には初回投与量は腎機能によって示されています。また、プレガバリンの副作用は用量依存的に発現するということに加え、めまい、眠気の副作用は高齢者に発現頻度が高いとされています。そこで本研究では、リリカカプセルの適正投与、安全な薬物治療を検討するため、初回投与量とさまざまな因子の副作用発現への関与を調査します。

【研究意義】

リリカカプセルの副作用の要因を調査し、適正使用を推奨します。

【研究内容】

新規でリリカカプセルが投与開始になった患者さんを対象に、年齢、体重、腎機能、薬歴を調査します。

【研究期間】

2013年10月～2014年9月の1年間を予定しています。

【患者さんの個人情報の管理について】

厚生労働省「疫学研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの不利益となることはありません。

【研究実施体制】

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

教授 荒木 博陽

講師 田中 亮裕

薬剤師 田中 守

薬剤師 飛鷹 範明

薬剤師 橋本 麻央

【研究成果】

初期用量は低用量から開始し、性差を考慮して患者毎に有効かつ安全な投与量へ調節していく必要があることが明らかとなりました。